

懐かしアルバム～田畠野山編～

田畠・野山編

暮らしの中の農作業

かつては牛馬に鋤(すき)を引かせ、男も女もお年寄りも子どもも一家総出のうえに、ご近所さんも手伝って、田植えや稻刈りの重労働を乗り切っていました。その頃の農作業には、牛や馬もなくてはならない存在で、家族の一員でした。



1-019

牛で耕す風景

鋤(すき)を引く農作業の様子。ゴルフ道から南東を写したもので、竹やぶの手前には音羽川(山科川)のどかな田園風景ですが、人にも牛にも重労働でした。(昭和19年頃、音羽前田町)

田植えの風景

耕(カスリ)の前掛けに姉さんかひり、タスキに手甲(てこう)、脚絆(きやはん)姿で田植えをする女性たち。こちらは、岩屋神社に奉納するあみを作る神聖な水田で、現在も区役所の近くにあります。(昭和30年頃、柳辻西浦町)



脱穀風景

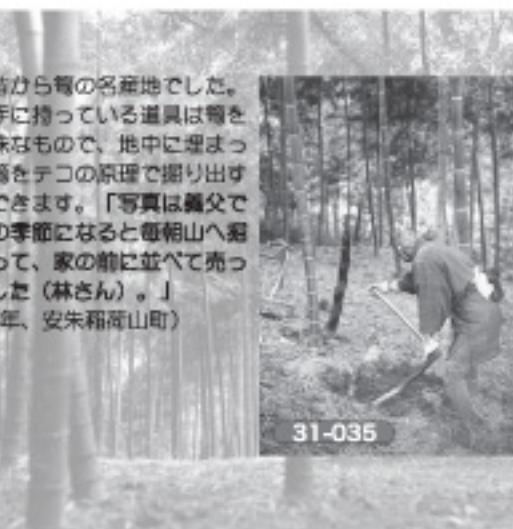
明治末に発明された足踏回転脱穀機は、従来の道具の8倍の能率をあげたことです。後ろには安朱の山が見えています。(昭和20年代前半、安朱北屋敷町)



5-003

薬草園での1コマ

日本新薬の薬草園とそこで働く農家の人が。後方には、竹林が見えています。(昭和初期、大宅坂ノ辻町)



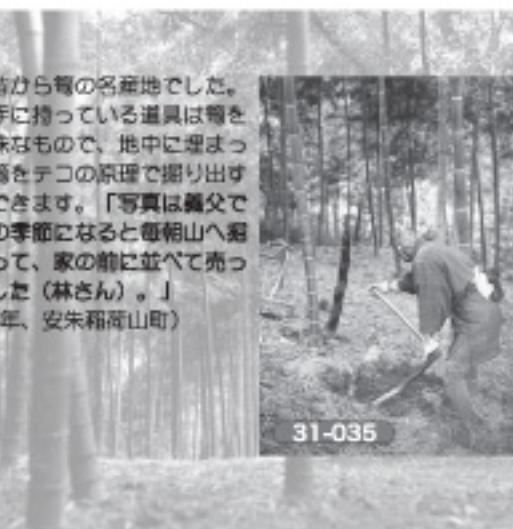
4-196

山科は昔から筍の名産地でした。男性が手に持っている道具は筍を掘る特殊なもので、地中に埋まっている筍をテコの原理で掘り出すことができます。「写真は義父です。その季節になると毎朝山へ遡りに上って、家の前に並べて売っていました(林さん)。」(昭和8年、安朱稻荷山町)

竹が建物に覆いかぶさり、まるでモンスターのようです。(昭和45年頃、場所不明)

山科の竹やぶと筍

山科には、昔からたくさんの竹やぶがありました。現在では都市開発により、そのほとんどが消滅してしまいましたが、山科の竹や筍は質が良く、宮中に献上されていました。



竹が建物に覆いかぶさり、まるでモンスターのようです。(昭和45年頃、場所不明)

懐かしアルバム～田畠野山編～

田植え休憩中

田植え中のひととき。「娘にいるのが一番楽しい。娘は私のいこいの場(林さん)。」この山科の地に生まれ、この土地を愛し、この土地とともに生きてこられた方です。(昭和36年頃、勧修寺平田町)



33-003



27-002

小山の農地

現在の名神高速道路京都東ICの南東辺りから東を写したもので、デコボコ道を荷車が行き、左には水車が回っています。米搗きや製粉などの作業に水力は重要な動力でした。光の差し具合から朝の光景でしょうか。(昭和30年、小山西御所町)

野つぼ

住宅や建物が並び切りは渋谷街道筋。山科の都市化初期では、まだまだ水田風景が見られました。あぜ道の左は下肥を貯めておく野つぼ。今では全く見られなくなりました。(昭和34年頃、御陵四丁野町)



1-030

肥え桶

娘子でかい桶に吊るして運んでいるのは、田畠にまく下肥。現在は飼糞や化学肥料が主流となり、かつてのような苦労は見られなくなりました。(昭和30年頃、小野萬龍尻町)



4-185

農作物の洗い場

用水路にたたきを作り、周りを建物で囲った農家の共同洗い場。京の町へ振り売りに出かける農家にとって、雨風や雪を凌ぎ、作物の泥を落とす大切な作業場でした。今はポンプですが、当時は湧き水が流れていって冬でも暖かかったそうです。(昭和45年頃、柳辻封シ川町)



5-005

山科の農業の営み今昔

山科は天皇家の土地(禁裏御料地)として、宮中に献上する作物などを栽培するところで、良質の作物が採れる田畠が広がっていました。戦後も採れたての野菜や卵などをリヤカーに積んで京の町へ振り売りに行く農家もありました。また勧修寺周辺には農園が点在し、ぶどう狩りや芋掘りなどの行楽地として関西一円から人々が訪れます。

三条通の振り売り



2-060

京津国道(三条通)九条山付近から裏方面を写したもの。自転車の男性の右に、かっぽう着や前掛け姿の女性が振り売りのリヤカーに集まっています。横切る高架は東山ドライブウェー、左は京阪京津線。「山科から九条山の坂を越えるのはとても大変でした。今でも振り売りを続けている方がいるそうです(林さん)。」(昭和33年、厨子奥花舟町)



名神高速道路の両側に広がる観光農園。新鮮な野菜やぶどう(8~10月)が買えます。(平成17年、勧修寺南大日町)



現在の営み